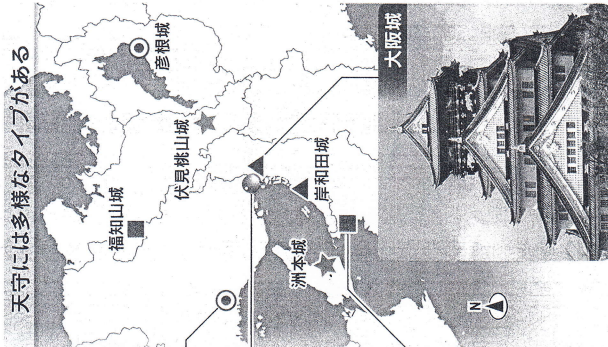
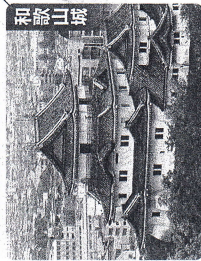
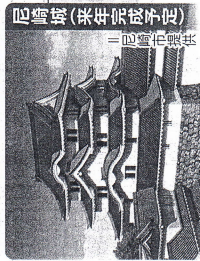
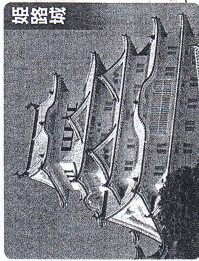




天守には多様なタイプがある

城跡が国の史跡の場合、建物の復元には文化庁の案件も満たす必要がある。現

阪神尼崎駅そばの尼崎城跡。来年の完成に向け、天守の基礎工事が進む。天守が隣接するのは明治初期、2重の付けやぐら2棟を凌ぐ4重の外観は、江戸期の絵図や文獻を参考に、鉄筋コンクリート造りで石垣を含む高さは約24メートルになるはずだ。

市域内まちづくり推進課の馬場章彦さんに経緯を聞くと「天守は巨額の建造費が必要だが、最初にそれをクリアできた」。今回の再建は、旧三浦電化(現エディオン)創業者の安部隆氏が「創業の地に歴史を」との言葉が始まり。同氏が10億円以上かけ天守を建造し、市に寄贈する。



資金・立地...好条件重なる

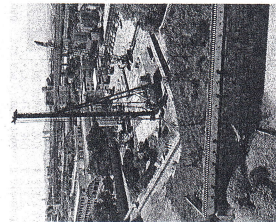
保存する遺構の保存を優先し、復元しない。そこで、建物の内外を建造時の土蔵と同等に再現する。だが、尼崎城跡は地盤に遺構がほとんど残っておらず、国の史跡に指定されたには、このため城跡とすることが難しかった。最後の糸目は市民の後押しだが「一般の方々から寄付や集まり、大きな資金を頂こう」と、馬場さんは強調する。

現在、全周に敷く天守を保存する。大まかに、鉄筋コンクリート造りで建造された。文化庁が先の条件を本格的に適用したは1980年代。これ以降、国史跡の天守を復元できたのは、本道で江戸期の姿を再現した白河の城跡(福島県白河市)など数例に留まれ「歴史天守」と呼ばれる。資金面をクリアし、文化庁の条件からも自由な尼崎城は全国的にかなり珍しい事例と言える。

関西には天守を持つ城跡は多い。和歌山城(和歌山市)の天守は戦時中の米軍の空襲で消失。8年に図面や写真をもとに鉄筋コンクリ

尼崎城、天守再建の希少ケース

兵庫府尼崎市が、江戸初期に築かれた尼崎城の天守再建に取り組んでいる。失われた天守の復元なら目指す地方自治体は多いが、近年は実現できた事例はほとんどない。自治体为天守を復元、再建するためには、どんな条件をクリアする必要があるのだろうか。



尼崎城天守の建設が進む現場(兵庫府尼崎市)

史跡なら遺構保存が難題

トで復元された。本意ではないが外観を忠実に再現したため「外観復元天守」と呼ばれ、他に福岡山城(京都府福知山市)がこれに当たる。

図面や写真が残っていないため他の天守を参考にしたり、推測で設計されたりしたものも復興天守と言う。第1号が31年に再建された大阪城(大阪府中央区)。大阪城天守閣主幹室員の宮本裕次さんは「すでに建造から80年以上。文化財として一定の価値があるはずだ」と話す。復興天守は他に岸和田城(大阪府岸和田市)が挙げられる。

このほか洲本城(兵庫県洲本市)の天守も存在しなかった天守を忠実に建造した場合、遊園地の施設として建てられた伏見桃山城(京都府)などは「模擬天守」と呼ばれる。

尼崎城の場合どうか。実は尼崎城の天守が存在した場所は建造予定地から東南に約300メートル。外観は忠実に再現するが、場所は異なるという意味も少し事例となる。「『再建天守』と呼んでほしい」と馬場さんが付け加える。

江戸期の天守がそのまま残る姫路城(兵庫県姫路市)や彦根城(滋賀県彦根市)は「現存天守」と呼ばれる。全国でもほかに貴重な建造物だ。姫路城総管理室の小林正浩さんは「修理の際も江戸期の土壁や材料をできる限り取り入れたい」と話す。

天守は時代の波に負け取り壊されたり復元、再建されたりしてきた。歴々の重宝を築きながら天守を見上げてみたい。

大阪・文化庁
田村(資)
二、動画を7日に電子版関西コーナーに

- ◎ 現存天守 江戸期の天守がそのまま残る
- 外観復元天守 外観を忠実に再現
- ▲ 復興天守 他の天守を参考にしたり推測したりして設計
- ★ 模擬天守 存在しなかった場所にあえて建造

(注)他に建造時の工法を採用する復元天守がある